

# 登米地域の麦作技術情報 第1号

令和5年2月15日発行  
Tel 0220-22-6127

登米農業改良普及センター  
HP <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin-n/>



←登米地域の農業  
技術情報はこちら

## 1 調査ほ及び管内の生育概要

### ～茎数は目標の㎡当たり400本を大きく下回る～

管内では多くの麦生産者が大豆も作付けしており、大豆収穫後の11月以降に遅れて麦を播種したほ場が多く見られました。

また、12月～1月の寒さにより葉先枯れが見られたほか、白鳥やガン類による食害や凍上害（霜柱による根の浮き上がり）がみられました。

2月10日調査では、㎡当り茎数が250本を下回る生育量となっています。

表1 2月10日現在の生育状況

| 品種     | 町域 | 地区    | 播種日<br>(月/日) | 草丈<br>(cm) | 茎数<br>(本/㎡) |
|--------|----|-------|--------------|------------|-------------|
| あおばの恋  | 豊里 | 南前田   | 11/8         | 8.8        | 236         |
|        |    | (前年値) | 11/1         | 12.1       | 138         |
|        |    | (平年値) | 11/8         | 8.0        | 257         |
| シラネコムギ | 迫  | 新花島前  | 11/7         | 9.8        | 237         |
|        |    | (前年値) | 11/5         | 11.7       | 136         |
|        |    | (平年値) | 11/10        | 8.9        | 196         |

\*平年値はH30～R4年の5か年平均

## 2 今後の管理について

### (1) 排水対策

消雪直前に暗きょ栓を開放し消雪直後には、排水口の拡張、明きょ連結部分の点検など、排水対策を迅速かつ定期的の実施しましょう。

越冬により衰弱した麦に、融雪水の停滞と高温条件が重なると、湿害を助長します。湿害が生じた状態では、追肥の効果は見込めません。

### (2) 麦踏み

年明け後（3月～茎立ち前まで）の踏圧は、1～2回行いましょう。霜柱によって麦の根が浮き上がり枯死しやすくなるので、越冬後にほ場が乾燥したら、直ちに踏圧を行いましょう。ただし、土壌水分が高い状態では車輪に麦が付着し、根が抜け枯死の原因となるので注意してください。

また、鳥害を受けたほ場では、株が引き抜かれて根が浮いており、その後の凍害や乾燥害を受けやすくなるので、早めに麦踏みを行ってください。

茎立期を過ぎてからの作業は伸びてきた茎を折ってしまうので、4月1日以降は控えてください。

### (3) 追肥

“麦は金肥でとる”と言われるように、追肥が重要です。

特に本年は平年に比べ生育量が少ないほ場が多いことから（目標とする2月上旬の茎数は㎡当たり400本）、根雪が溶け、ある程度ほ場が乾いたら茎数確保のため、株直し追肥を行いましょう。

また、一穂の粒数を増やし子実の充実を図るために、幼穂形成期とともに減数分裂期追肥を行いましょう。

表2 食用麦の追肥の目安

単位：N kg/10a

|    | 目安時期        | 株直し追肥<br>(起生期) | 幼穂形成期<br>(幼穂長2~3mm) | 減数分裂期<br>(幼穂長20~30mm) | 穂揃期<br>(8~9割出穂) |
|----|-------------|----------------|---------------------|-----------------------|-----------------|
|    |             | 茎数を増やす         | 穂数を増やす              | 一穂粒数を多くする             | 千粒重、蛋白含量を高める    |
| 小麦 | 生育状況        | 2月~3月上旬        | 3月下旬~4月上旬           | 4月下旬~5月上旬             | 5月上旬~中旬         |
|    | 播種が早い(生育量多) | -              | 2.5                 | 2.5~5                 | 2.5~5           |
|    | 播種が遅い(生育量少) | 1~2            | 1.5~2               |                       |                 |
| 大麦 | 時期          | 2月~3月上旬        | 3月中旬~4月上旬           | 4月中旬~4月下旬             | -               |
|    | 生育状況        |                |                     |                       |                 |
|    | 播種が早い(生育量多) | 1~2            | 2~2.5               | 2~2.5                 | -               |
|    | 播種が遅い(生育量少) | 1              | 1.5~2               | 1.5~2                 |                 |

\* 平成25年度麦・大豆研修会資料より抜粋・一部改変

\* 大麦は、硬質粒の発生を防ぐため、穂揃期追肥は行わない。

### 【採種ほの追肥】

種子生産では、倒伏をさせないこと、子実の充実を図ることが合格種子へ繋がります。

追肥時期が遅く、量が多くなるほど成熟期が遅れるので注意してください。

ほ場ごとに茎数（㎡当たり 500 本以上の場合には特に注意）や葉色を勘案し追肥量を判断してください。

幼穂形成期とそれ以降の追肥窒素合計量を 5kg/10a 以内としてください。

表3 種子用麦類の追肥の目安

|    | 追肥時期      |            | 追肥量(窒素成分) |
|----|-----------|------------|-----------|
|    | 追肥時期      | 追肥時期       |           |
| 大麦 | 融雪後~幼穂形成期 | 1月下旬~3月中旬  | 2~3kg/10a |
|    | 減数分裂期     | 4月中旬から4月下旬 | 2kg/10a   |
| 小麦 | 融雪後~幼穂形成期 | 1月下旬~3月下旬  | 2kg/10a   |
|    | 減数分裂期     | 4月下旬~5月上旬  | 2~3kg/10a |
|    | 出穂期~穂揃期   | 5月上旬~5月中旬  | 1~2kg/10a |

### (4) 雑草防除

高温傾向のため、雑草の発生が目立つほ場が見られます。除草剤の種類によって、効果が高い雑草とほとんど効果のない雑草があるので、雑草の種類を確認した上で、除草剤の雑草茎葉散布を使用適期に行いましょう。

(注) 除草剤を使用する前に必ず登録内容を確認し、使用基準に従ってください。

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| <h2 style="margin: 0;">春の農作業安全確認運動</h2> <p style="margin: 0;">令和5年4月1日から6月30日まで</p> <p style="margin: 0; font-size: 1.2em;">◇◇◇しめよう！シートベルト！◇◇◇</p> |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|